

言語指導段階内容表(平成19年度版)

幼児名； (学年) 評価者；

評価基準 A；日常生活の中で十分に話せている  
 B；場の条件や内容によって話せている。  
 C；達成していない。(話せない)

\*評価の左側の欄は学年始、右側の欄は学年末の評価

段階	言語指導項目 (理解 表出)	評価
1	<p>子供の姿 遊びや生活の中で、繰り返される簡単なことばがけになじむ。 自分の気持ちや要求などを指さしや表情、身振り、動作などで表す。</p> <p>あやし遊び(ゆさぶり遊び、ふり遊び、いないいないばあ など)を楽しむ。 物を大人に渡したりもらったりのやり取りを楽しむ。 簡単な歌遊びを楽しんだり、おもちゃで遊んだりする。 表情、身振り、音声などから大人の指示(オイデ、ダッコ、チョウダイ など)が分かる。 絵本を読んでもらうことを楽しむ。 コップを持ち飲む動作をするなど、物をその用途に応じて動かして遊ぶ。 バブリング(アアア、アブー、ブブー などの声を出すこと)をする。 ゆさぶり遊びやイナイナイバーをしてもらうと声を出して笑う。 特別な意味のある時に母親の顔を見たり、微笑んだりする。 要求や助けを呼ぶ発音をする。 音声の部分的な模倣(オハヨウ オア など)や音声のイントネーションの模倣(チョウダイ オウアイ など)ができる。 指さし行動が増える。 チョウダイ、パイパイ などの身振りを自分からする。 写真と実物を見比べて指さしたりマッチングができる。</p>	
2	<p>子供の姿 状況や絵、写真などを手掛かりに、繰り返し話しかけられる簡単なことばを理解し始める。 生活や遊びの中で、動作や仕草、声を真似るようになってるとともに、声やことばを楽しんで使い始める。</p> <p>見立て遊びを楽しむ。 体験した遊びを身振りや音声で再現しながら一人遊びをする。 ふり遊び、水遊び、砂遊びを楽しむ。 色合わせが2～3できる。 簡単な指示(シールを貼るよ)や質問(はどこ?)を理解し、行動したり答えることができる。 絵本を読んでもらいたがる。 一人で絵本を見ることに興味をもつ。 水や粘土、フィンガーペイントなどで自己表現する。 意味までは知らないが、音節や短い単語を真似て繰り返す。 指さし、身振り、音声を組み合わせて自分の意思を伝えようとする。 興味があるものを指さし、大人が教えてくれるのを待つ。</p>	
3	<p>子供の姿 日常生活でよく使われることばがある程度分かり、分からない時には聞き返すような表情をする。 自分の経験したことや感じたことなどを、身振りを交えて2～3語文くらいで伝える。</p> <p>教師と係わりながらごっこ遊びをする。 大きい、小さい、丸、三角、四角 が分かる。 基本的な色(赤、青、黄、緑)が分かる。 簡単な絵本を見て、大体を理解する。 盛んにことばを真似(口声模倣)する。 遊び相手を オーイ、オイデ。と誘う。</p>	

	<p>ぼく、わたし を使う。        する。 という表現ができる。        「食べる」 「遊ぶ」        自分の名前を言う。        は を と などの助詞を使う。        「ぼく(わたし)は」 「ボールを」 「あめと チョコ」</p> <p>なに、どれ、だれ、どこ を使った簡単な問答ができる。        喜怒哀楽などの感情を表すことばを身振りを入れて使う。        いっぱい、少し、同じ、違う を使う。        「これ、～(と) 同じ」        いくつ、上 下、前 後 を使う。        1～10まで、指を置いて数えると分かる。        経験を羅列的に2～3語文くらいで伝える。        「ぼく(わたし) 遊んだ。」 「おにあそび、おもしろかった。」</p>	
4	<p>子供 の 日常生活に必要なことばが大体分かり、使おうとしたり、分からない時には聞き返したりする。        自分の経験したことや思ったこと、感じたことなどを3～5語文くらいで話したり、ことばのやり取りを楽しんだりする。</p> <p>友達と係わりながらごっこ遊びをする。        絵本を自分で読もうとする。        あたりはずれ、アウト セーフ が分かる。        きょう あした、朝 昼 夜 が分かる。        のとなり が分かる。        「くん(ちゃん)の となり」 「ひまわり組の となり」        長い 短い、高い 低い、太い 細い が分かる。        だから 。 だけど 。 を使う。        「雨だから ない。」 「転んだけど がんばる。」        してから する。 したら する。 を使う。        「トイレ 終わってから 給食に行く。」 「あいさつ 終わったら の も に で などの助詞を使う。        「くん(ちゃん)の お母さん」 「ぼく(わたし)も 遊ぶ」        「トイレに いく」 「プレイルームで 遊ぶ」        いつ、多い、少ない、あいさつのことば(おやすみなど)などを使う。        しりとり、「あ」のつくことばさがしなどの簡単なことば遊びをする。        喜怒哀楽などの感情を表すことばを使う。        自分の体の右 左が分かる。        簡単な疑問文を話す。        「どこに いくの。」 「これ なあに。」 「どうしたの。」        「どうして(なぜ) なの？」        日～土曜日、こっち あっち を使う。        10～20 が分かる。        命令文が分かる。        「食べなさい。」        経験したことを ました。 で話す。        「遊びました。」 「食べました。」        経験を時間的経過に従って、3～4語文くらいで話す。        「ぼく(わたし)は、みんなで 遊びました。ボールを 投げて 遊びました。        先生に ボールを ぶつけました。おもしろかったです。」</p>	
5	<p>子供 の 日常生活に必要なことばが大体分かり、生活の中で使ったり、分からない時にはことばなどで聞き返したりする。        自分の経験したことや思ったこと、考えたことなどを順序に沿って話したり、伝え合うことを楽しんだりする。</p> <p>お買い物ごっこなどのことばを主としたごっこ遊びをする。        絵本を自分で読んで、大体を理解することができる。</p>	

<p>へ の助詞を 使う。  「公園へ いく。」 「お母さんへ プレゼント」  のそば の中  「くん(ちゃん)の そば」 「机の 中」  したい。 みたい。  「遊びたい」 「犬 みたい」  もし、 だったら 。  「もし、雨だったら、いけないよ。」  これから、これで、そして、それから を使う。  表 裏、先週 今週 来週、先月 今月 来月、春 夏 秋 冬、  今 ずっと前 今度、去年 今年 来年 などを使う。  簡単な疑問文を話す。  「いつ いくの。」  20～30が分かる。  反対ことば、連想ことばなどのことば遊びをする。  喜怒哀楽などの感情を表すことばを進んで使う。  れる。 られる。  「つかまえる。」 「つかまえられる。」  見たこと、したこと、思ったこと、感じたことを話したり伝え合ったりす  「ぼく(わたし)は、みんなで 縄跳びをして 遊びました。  ぐるぐる まわして たくさん 跳びました。一番 たくさん  跳んだのは、～くん(ちゃん)です。ぼく(わたし)は、  すごいなあ と思いました。今度は、ぼくも がんばります。」  質問に受け答えできる。  「何を 食べてきたの。」 「 を 食べてきました(きたよ)。」  「どこへ いくの。」 「 へ いきます(いくよ)。」  30～50が分かる。</p>			
--	--	--	--

児童名； (学年) 評価者；

- 評価基準 A ; 日常生活の中で十分に話せている、書けている  
B ; 場の条件や内容によって話せている、書けている。  
C ; 達成していない。(話せない、書けない)

\* 評価の左側の欄は学年始、右側の欄は学年末の評価  
\* 掲載ページは「ことばのべんきょう」における指導項目の掲載ページを示す

段階	項目番号・言語指導項目	品詞名	掲載ページ	評価
6	だれが している。 なにを している。 「わたしがたべている。」 「ごはんをたべている。」	格助詞	1年上 P72	
	なにが した。 なにを した。 「ねこがおいかけた。」 「ねずみをおいかけた。」	格助詞	P73	
	なにを 。 だれが 。 どこで 。 いつ 。	格助詞	P98	
	どんな 。 「あかいりんご」 「みどりのかさ」	形容詞	1年下 P4～ P9	
	で を する。 「はさみでいるがみをきる。」	格助詞	P10～ P17	
	がある。 がいる。 「ぎゅうにゅうがある。」 「おかあさんがいる。」	自動詞	P18～ P20	
	へ で 「プールへいく。」 「プールでおよく。」	格助詞	P24	
	はどうしたの? どうして の? 質問したり答えたりする。 「男の子はどうしたの。」 「おとこのこはまっているよ。」	疑問詞への 応答	P28～ P53	

	「どうしてまっているの。」 「しんごうがあかだからまっているよ。」			
	どんなふうに 「のろのろはした。」 「にこにこわらった。」	副詞	1年下 P5 4 ~ P5 5	
	てから。 「テレビを見てからおふろにはいる。」 「てをあらってからおやつを食べる。」	接続助詞 + 格助詞	P6 2 ~ P6 9	
	どんなもの。 なにをするもの。 「きるもの」 「のむもの」 「えんぴつをけずるもの」 「かおをみるもの」	動詞の連体 形 + 形式名 詞	P9 8 ~ P1 0 2	
	してもらう。 してあげる。 「かたをたたいてもらう。」 「かたをたたいてあげる。」	接続助詞 + 動詞(もら う)	P1 0 3	
	「これ」「あれ」 が分かり使える。 「これテーブルにならべてね。」「はい。」 「コップをもってきて。」「これ?」	指示語	P1 1 0 ~ P1 1 2	
7	のは。 「ぶらんこにのっているのは たろうさんです。」	準体助詞	2年上 P4 ~P6	
	に で 「ブランコにのる。」 「ブランコであそぶ。」	格助詞	P7	
	ので から。 「おなかがいたくなったので おいしゃさんにみてもらいました。」 「あめがふっているから うんどうかいはありません。」	接続助詞	P1 6 ~ P2 4	
	が してくれました。 に してもらいました。 「おいしゃさんが ちゅうしゃをしてくれました。」 「おいしゃさんに ちゅうしゃをしてもらいました。」	格助詞 同義の表現 ~が~くれました ~に~もらいました	P2 5 ~ P3 1	
	は よりおもしろい。 は よりたかい。 「はるこさんは たろうさんよりおもしろい。」 「ぼくは ゆりこさんよりたかい。」	係助詞 格助詞	P3 4 ~ P3 6	
	もし たら。 「もし雨がふったらえんそくにいけない。」	副詞	P4 0 ~ P4 2	
	なぜ ?に答える。 「なぜはをみがくのですか?」 「はをみがかないと、むしばになるからです。」	疑問詞への 応答	P4 4	
	それから てから。 「リュックサックにおべんとうをいれました。それからすいとうにむぎちゃをした。」 「リュックサックにおべんとうをいれてからすいとうにむぎちゃをいれました。」	接続助詞 接続助詞 + 格助詞	P4 6 ~ P4 9	
	から まで。 「がっこうからここまであるいたの。」	格助詞 + 副助詞	P5 2 ~ P5 6	
	と 。 すると 。 「あさおきと あめがふっていた。」 「あさおきた。するとあめがふっていた。」	接続詞	P5 8 ~ P6 0	

	<p>たり たり 「よしこさんは、ないたりわらったりしています。」</p>	<p>接続助詞</p>	<p>P 6 4 ~ P 6 6</p>		
	<p>なんのために ? に答える。 「なんのために花に水をやるの?」「花がかれないようにするため」</p>	<p>疑問詞への 応答</p>	<p>2 年上 P 6 6</p>		
	<p>はじめに 。 つぎに 。 それから 。 「はじめにいるがみをおった。つぎにはさみでできた。 それからたなばたとかいた。」</p>	<p>はじめ + 格助詞 。 つぎ + 格助詞 。 接続助詞</p>	<p>P 7 2</p>		
	<p>してあげる。 してやる。 「かたをたたいてあげる。」 「水をかけてやる。」</p>	<p>同義の表現 動詞(～て) + あげる 動詞(～て) + やる</p>	<p>P 8 2 ~ P 8 5</p>		
	<p>て 。 「たまをなげてかごにいれる。」</p>	<p>接続助詞</p>	<p>P 9 0</p>		
	<p>。 だけど 。 。 でも 。 「あめがふっているよ。だけどかさがないの。」 「にんじんがきらいなの。でもがまんしてたべたよ。」</p>	<p>接続詞</p>	<p>P 9 4 ~ P 9 6</p>		
	<p>なかなか 。 やっと 。 「あめがなかなかやみません。」 「あめがやっとやみました。」</p>	<p>副詞</p>	<p>P 9 6</p>		
	<p>しようとする。 「ボタンをとるとする。」</p>	<p>助動詞 + 格 助詞 + する</p>	<p>P 1 0 0</p>		
	<p>すると 。 そうして 。 「おかあさんがおとうとをよんだ。すると、おとうとははしってきた。」 「クレヨンとがようしをだした。そうして えをかいた。」</p>	<p>接続助詞</p>	<p>P 1 0 3</p>		
8	<p>どうしてかというと 。 「わたしは、かさをもってきたよ。どうしてかという、雨がふったらぬれるからです。」</p>	<p>副詞</p>	<p>2 年下 P 4 ~ P 8</p>		
	<p>どうして ? に対して だって と答えることができる。 「どうして手をあらわないの。だって水がつめたいんだもの。」</p>	<p>疑問詞への 応答</p>	<p>P 1 0 ~ P 1 3</p>		
	<p>し 。 「ゆきがふると、スキーもできるし、そりもできる。」</p>	<p>接続助詞</p>	<p>P 1 3</p>		
	<p>がる(形容詞 + がる) かわいい かわいがる さびしい さびしがる</p>	<p>形容詞 + 接尾辞</p>	<p>P 1 6 ~ P 1 9</p>		
	<p>のだそうです。(伝聞) 「おばさんのうちに、あかちゃんがうまれたのだそうです。」</p>	<p>格助詞 + 助 詞 + 接尾辞 + です</p>	<p>P 1 6 ~ P 1 9</p>		
	<p>かもしれない。 「あめがふるかもしれない。」</p>	<p>終助詞 + 係助詞 + 動詞 + 助動詞</p>	<p>P 2 2 ~ P 2 4</p>		
	<p>したらどうするの。 すればいい。 「あめがふってきたらどうするの。」 「よしこさんのかさにいれてもらえばいい。」</p>	<p>助動詞 + 接 続助詞</p>	<p>P 2 5</p>		

	からできている。 「とうふはだいずからできている。」	格助詞	P 3 2		
	たら、。すると、。 「スイッチを押したら、へやがぱつと明るくなりました。」 「スイッチを押しました。すると、へやがぱつと明るくなりました。」	助動詞 接続助詞	2 年下 P 4 0 ~ P 4 2		
	することを といいます。 「みせやデパートでいろいろなものをかうことをかいものといいます。」	形式名詞	P 4 3		
	が に を 。 「たかしさんがポストにてがみをいれました。」	格助詞	P 4 6 ~ P 4 9		
	しばらくして、。まもなく、。やっと。すぐ。 「しばらくして、あめがやみました。」	副詞	P 5 9 ~ P 6 0		
	はず 「おかあさん、あしたははれるはずだよ。」 「どうしてわかるの。」 「だってテレビの天気予報でいていたよ。」	名詞	P 6 1		
	をどうする。 がどうなる。(他動詞と自動詞) 「まどをしめる。」「まどがしまる。」 「人をあつめる。」「人があつまる。」	他動詞 自動詞	P 6 7		
	なので。 ので。 「おしょうがつなのでうれしい。」 「おしょうがつになるのでうれしい。」	接続助詞	P 7 2		
	連体修飾句を用いて文を作る。 「おかあさんにもらったまめをたべた。」	連体修飾句	P 7 3		
	のとき。 のころ。 「デパートに行ったときかったよ。」 「赤ちゃんのころふとってたよ。」	格助詞	P 7 6 ~ P 7 8		
	する。 している。 した。 「かいだんをのぼる。」「かいだんをのぼっている。」 「かいだんをのぼった。」	動詞の時制	P 7 9		
	いつも。 ときどき。 いま。 「おかあさんは、いつもほんをよんでいる。」 「おかあさんは、ときどきおこります。」 「おかあさんは、いませんたくをしています。」	副詞	P 8 5		
9	簡単な敬語を使って話す。 来る - いらっしゃる 言う - おっしゃる	動詞	3 年上 P 4 ~ P 1 1		
	ながら。 「テレビを見ながら、おやつを食べました。」	接続助詞	P 1 2		
	もの、 こと、 ところ (形式名詞) を使い分ける。 「体重計は、体の重さを測るものです。」 「体重測定とは、体の重さを測ることです。」 「給食室は、給食を作るところです。」	形式名詞	P 1 9		
	そうです。(伝聞) 「正夫君は かぜをひいて ねているそうです。」	助動詞	P 2 0		

	ては いけません。(禁止) 「走っては いけません。」	接続助詞 + 係助詞 いけ + 助動詞 + 助動詞	P 2 1		
	ても、 <u>ません</u> 。 「勉強の始まる時刻になっても、正夫君は来ません。」	接続助詞 + 接続助詞 助動詞 + 助動詞	P 2 1		
	動詞 + はじめる、動詞 + おわる 食べる + はじめる 「食べはじめる」 書く + おわる 「書きおわる」	動詞 + 動詞	3 年上 P 3 9		
	「 ようだ」「 ような」「 ように」 を文中で適切に使い分け る。 「雲の上に乗っているようだね。」 「りんごの <u>ような</u> ほおをしている。」 「鳥の <u>ように</u> 空をとびたい。」	よう + 助動詞 よう + 格助詞 よう + 格助詞	P 4 2 ~ P 4 8		
	動詞 + 動詞 (複合動詞) の意味が分かり使う。 投げる + 上げる 「投げ上げる」 積む + 重ねる 「積み重ねる」	動詞	P 4 9		
	動詞 + 「だす」 「だす」の意味の違いが分かり使う。 “ はじめる ” の意味 「食べだす」「走りだす」「歩きだす」 “ 外へ出す ” の意味 「おいだす」「押しだす」「はきだす」	動詞	P 4 9		
	<u>そうです</u> 。(様態) 「いそがしそうです。」 「苦しそうです。」	助動詞	P 5 9		
10	「どんな ?」 の表現で質問する。 やおやさんでは、かきやくりなどのくだものや、だいこんやにんじん などの野菜を売っています。 「やおやさんでは、どんな野菜を売っていますか？」	疑問詞	3 年下 P 4 ~ P 1 0		
	らしい。(推定) 「まさお君は自転車を買ってもらったらしいよ。」	助動詞	P 1 1		
	<u>ないように</u> (気をつけます。) 消しゴムであまり強く消すと、紙がやぶれてしまいます。 「紙がやぶれてしまうので消しゴムであまり強く消さないように気 をつけます。」	ない + <u>よう</u> + 格助詞	P 1 2		
	自動詞と他動詞の表現の違いと意味の違いが分かり適切に使う。 「入る - 入れる」 「出る - 出す」 「たこが あがる。 - たこを あげる。」	自動詞 他動詞	P 1 3		
	れる。 られる。(受身) ねこが ねずみを おいかけた。 「ねずみが ねこに おいかけられた。」	助動詞	P 2 1		
	することができる。 の言い方を直す。 書くことができる 「書ける」 「この荷物、重いよ。正夫に持てるかな。」	助動詞	P 3 0		
	「はじめに 。 そして 。 次に 。 それから 。 終わりに 。」と順を追って説明する。	はじめ + 格助詞 接続助詞 次 + 格助詞 接続助詞 終わり + 格助詞	P 3 6 ~ P 3 9		
	<u>せる</u> 。 <u>させる</u> 。 という使役の関係が分かり使う。	助動詞	P 4 1		

	本を読む。「本を読ませる。」 お母さんがまどをしめる。 「お母さんがはるお君にまどをしめさせる。」		~ P 4 2		
	ので。(順接) のに。(逆接) 「雨が降りそうだったので、傘を持って駅まで父を迎えに行った。」 「外は寒いのに、薄着をしています。」	接続助詞	P 4 3		
	(して)くれる。(して)もらう。 「ぼくが傘がなくて困っているとき、和男君が家まで傘に入れてくれました。」 「ぼくが傘がなくて困っているとき、和男君に家まで傘に入れてもらいました。」	動詞+助詞 + くれる 動詞+助詞 + もらう	3年下 P 5 5		
11	ただけでした。しました。違いが分かる。 「お父さんは『それはよかったね。』と言っただけでした。」 「お父さんは『それはよかったね。』と言いました。」	副助詞	4年 P 1 1		
	が(して)ある。を(して)いる。 違いが分かる。 「字が書いてある。」 「字を書いている。」	動詞+助詞 + ある、いる	P 1 6		
	動詞の活用 「っ」のつく形 配る 「配った」 「っ」のつかない形 出す 「出した」	他動詞の活用	P 2 2		
	常体と敬体を言い換える。 「いる-います」 「見た-見ました」	助動詞+ 助動詞	P 2 3		
	なことがあります。です。 (する)ことがあります。します。違いが分かる。 「便利なことがあります。」「便利です。」 「薬を飲むことがあります。」「薬を飲みます。」	形式名詞	P 2 7		
	かもしれませぬ。 かもしれぬ。 「このやり方を覚えておくと、役に立つことがあるかもしれませぬ。」	終助詞+係助詞+動詞+助動詞 +助動詞 終助詞+係助詞+動詞+助動詞	P 2 7		
	動詞の活用 「ん」のつく形 うかぶ 「うかんだ」 うむ 「うんだ」	動詞	P 3 3		
	形容詞の活用 うれしい 「うれしかった」 楽しい 「楽しかった」	形容詞	P 3 9		
	動詞の活用 「い」のつく形 書く 「書いた」 ぬぐ 「ぬいだ」	動詞	P 4 6		
	動詞+ない 鳴る 「鳴らない」 つかまる 「つかまらない」 しめる 「しめない」 食べる 「食べない」 いる 「いない」 見る 「見ない」	助動詞	P 5 2		
	もし、がなかったら 「もし、てすりがなかったら、かいだんをふみはずすかもしれませぬ。」	副詞+ば、 なら、たら	P 5 3		
	とくに、また、それは、でも、それで 「とくに、信号が黄色の場合は。」 「また、安全と思っても。」 「それは、わたり始めるときは。」	副詞 接続詞 代名詞+ 助詞	P 5 8		



	「でも、横断歩道で 。」 「それで、自動車が 。」	接続詞 代名詞 + 助詞			
	よう。 う。 「かたづけよう」「読もう」	助動詞	P 6 5		
	っていました(完了) してました。(進行) 「道路がなおってました。」「道路をなおしてました。」	接続助詞	P 7 3		
	形容詞 + ない むずかしい 「むずかしくない」 太い 「太くない」	形容詞	P 7 4		
	みる。 意味の違いが分かる。 「展覧会で絵をみる。」 「小鳥のめんどろをみる。」 「お医者さんにみてもらう。」 「考えてみましょう。」	動詞の解釈	P 8 6		
	しか 。 「ゆっくりとしか走りません。」	助詞 + ない、せん	P 9 3		
	動詞の活用 「行かない、行きます、行く、行けば、行こう」 「食べない、食べます、食べる、食べれば、食べよう」	動詞	P 1 0 0		
	しようとした。 言い換える。 手をあらう。 「手をあらおうとした。」	助動詞	P 1 0 2		
12	が、 を、 で、 に などの一字が違うことで意味が変わる文を作る 「先生が手紙を書きました。」 「先生に手紙を書きました。」	格助詞	5 年 P 1 1		
	が 。（格助詞） が、 。（接続助詞） 同じ使い方の文を作る。 「先生が手紙を書きました。」 「ボールをさがしたが、みつからない。」	格助詞 接続助詞	P 1 5		
	に 同じ使い方の文を作る。 「先生に手紙を書きました。」(対象) 「国語の時間に、先生がおもしろい話をしてくださいました。」(時間) 「浦島太郎はおじいさんになってしまいました。」(結果) 「お母さんにしかられてしまいました。」(受け身の原因)	格助詞	P 1 5		
	だから 。（順接） けど 。（逆接） 接続詞の使い方が分かる。 「雨が降っている。だからでかけない。」 「雨が降っている。けどでかけよう。」	接続詞	P 1 5		
	ばかり 。（も） 。（も） 違いが分かる。 「赤いおはじきばかり集めた。」 「赤いおはじきも集めた。」	副詞 係助詞	P 2 3		
	だれ、いつ、どこ、どれ、なに + か を使って文を作る。 「だれか、乳をしぼってみるかい。」 「いつか、あの山へ登ってみよう」 「どこか、遠い町へ行きたいね。」 「どれか、好きなおかしを食べなさ」 「なにか、ほしいものを言ってごらん。」	代名詞 + か	P 2 4		
	たって 。（ですって） 。（別の言い方で表す）。 「いくら見回したって見えないのじゃ。」 「いくら見回しても見えないのじゃ。」 「かくれみのですって、それはおもしろい。」 「かくれみのだって、それは	接続助詞 終助詞	P 3 4		

どんな  どんなふうに  のようなことばを使ってたずねる。	疑問詞	P 3 8		
連体修飾句を用いた文を、二つの文に分ける。 頭の黒い鳥が、細い木の枝に止まっている。 鳥は頭が黒い。 鳥は細い木の枝に止まっている。	連体修飾句	P 3 8		
ための ということばを使って説明する。 「観光バスは旅行を楽しむための乗り物です。」	ため + 格助詞	5 年 P 5 2		
どんな働きをするか説明する。 「つりかわは立っている乗客がたおれないようにする <u>もの</u> です。」	形式名詞	P 5 2		
。それ <u>だけ</u> <u>で</u> は <u>なく</u> <u>て</u> 、。 「私と弟は代わる代わるジョンに餌と水をやることにしています。 それだけではなくて、一日おきに、散歩などの世話をする当番を決めています。」	代名詞 + 副助詞 + 助動詞 + 係助詞 + 動詞 + 接続助詞	P 5 8		
どこかで。 「どこかで夕ご飯を食べていこうよ。」	代名詞 + 格助詞	P 5 9		
<u>どんな</u> に。 <u>いくら</u> 。 同じ意味の文を作る。 「どんなにさがしても見つけることができない。」 「いくらさがしても見つけることができない。」 同様に、「なぜ、どうにか、どうしても、なみなみと」と同じ意味のこ考え文を作る。	連体詞 + 格助詞 接頭辞 + 接尾辞	P 6 5		
は <u>するもの</u> で、 は <u>するもの</u> だ。 「鉛筆は書くもので、消しゴムは消す <u>もの</u> だ。」	形式名詞	P 6 6 ~ P 7 0		
「すると、 つまり、 <u>ですから</u> 、 <u>このことから</u> 」を入れて文をつなぐ。 「アラジンが古いランプをこすりました。 すると、大男が現れました。」	接続助詞 副詞 接続詞 連体詞 + こと + 格助詞	P 7 0		
漢字二字の熟語に「する」をつけて使われることばを集める。 「 <u>生産する</u> 」 「 <u>停電する</u> 」	体言 + 自動詞	P 7 6		
形容詞 + なる あぶない 「あぶなくなる」 大きい 「大きくなる」	形容詞 + なる	P 7 6		
<u>このように</u> 。 たくさんの例を挙げてそれをまとめて言うときに使う 「このように、乗り物がなくなると困ることが起こります。」	連体詞 + よう + 格助詞	P 7 6		
<u>から</u> 。 同じ使い方の文を作る。 「七時からテレビを見るつもりです。」(起点) 「終わってからではいけない。」(以降、あと) 「友達とサッカーをすることになっていたからです。」(原因、理由)	格助詞	P 8 3		
21。それでも。 「よしお君は体が大きくありません。それでも、ふとんを引きずるよう始めました。」	接続詞	P 8 4		
22 形容動詞の活用 「山の中はとても静かだ。」「静かな沼」「静かになる。」	形容詞	P 9 3		

13	<p>だけ。も。違いを説明する。  「鉛筆だけを使って、山の絵を描いた。」  「鉛筆も使って、山の絵を描いた。」</p>	副助詞 係助詞	6年 P2 1		
	<p>という。  「太郎君が、『昔、どのような恐竜がいたのか』ということを説明しました。」  「フランダースの犬という映画を見た。」  「天気予報の傘のマークは、雨が降るということを示している。」</p>	格助詞+い う	P2 8		
	<p>で。二つの文をつなぐ。電車に乗った。町へ行った。  「電車で町へ行った。」</p>	格助詞	6年 P4 2		
	<p>し。しし。(並列)  「歯を磨いたし、顔も洗った。」</p>	接続助詞	P4 7		
	<p>と。  「絵の具の青に黄色を混ぜると、緑色になった。」</p>	接続助詞	P4 8		
	<p>まず はじめに、最初に のように別のことばで言い換える  実は ところが 次に このように このようときには</p>	副詞 はじめ+格助詞	P5 3		
	<p>している、した、する の違いを考える。  「毎日庭先で縄跳びをしている。」  「毎日庭先で縄跳びをした。」「今日も庭先で縄跳びをする。」</p>	動詞の時制	P6 3		
	<p>かける。違いが分かる。  「急いで窓の所へかけていった。」「椅子に腰をかけて本を読んだ。」  「玄関の鍵をかけた。」「めがねをかけて新聞を読んだ。」  「友達の肩に手をかけた。」「花に水をかけた。」</p>	動詞の解釈	P6 3		
	<p>これから、それに、それで を別のことばに言い換える。  これから 「今から」 それに 「その上」  それで 「というわけで」</p>	代名詞+格助詞 今+格助詞	P7 5		
<p>よう 意味の違いが分かる。  「おじいさんの家に出かけようとする。」(これから何かをする)  「花火は、ひまわりのように美しく見えた。」(何かみただ)  「子犬は、何かにおいをがいでいるようです。」  (そんなふうに見える)  「犬は名前を呼ぶととんで来るようになった。」  (今までとは違ったふうになる)</p>	助動詞 様 助動詞 様	P8 2			
<p>しました。するようになりまし。違いが分かる。  「名前を呼ぶととんで来ました。」  「名前を呼ぶととんで来るようになりまし。」</p>	様+格助詞 +なり+ 助動詞+ 助動詞	P9 2			
<p>。それは、。理由をつけた文を作る。  「弟のポケットに頭をつっこみ、ねだるようになりまし。それは、弟のポケットの中にレナードの好きなチューインガムがいつも入っていたからです。」</p>	代名詞+ 係助詞	P9 3			